

AI特許調査の進化：サマリアが「再現率100%」を達成した検証結果とその実務的意義

2026年9月、パテント・インテグレーション社はAI「サマリア」の新機能を用い、特許検索競技大会の過去問で再現率100%（上位30件確認時）を達成したと発表しました。本データは自社検証に基づく「上限性能の実証」であり、実務におけるAIと人間の新たな役割分担を示唆しています。



3分野すべての正解26件を
上位30件で捕捉

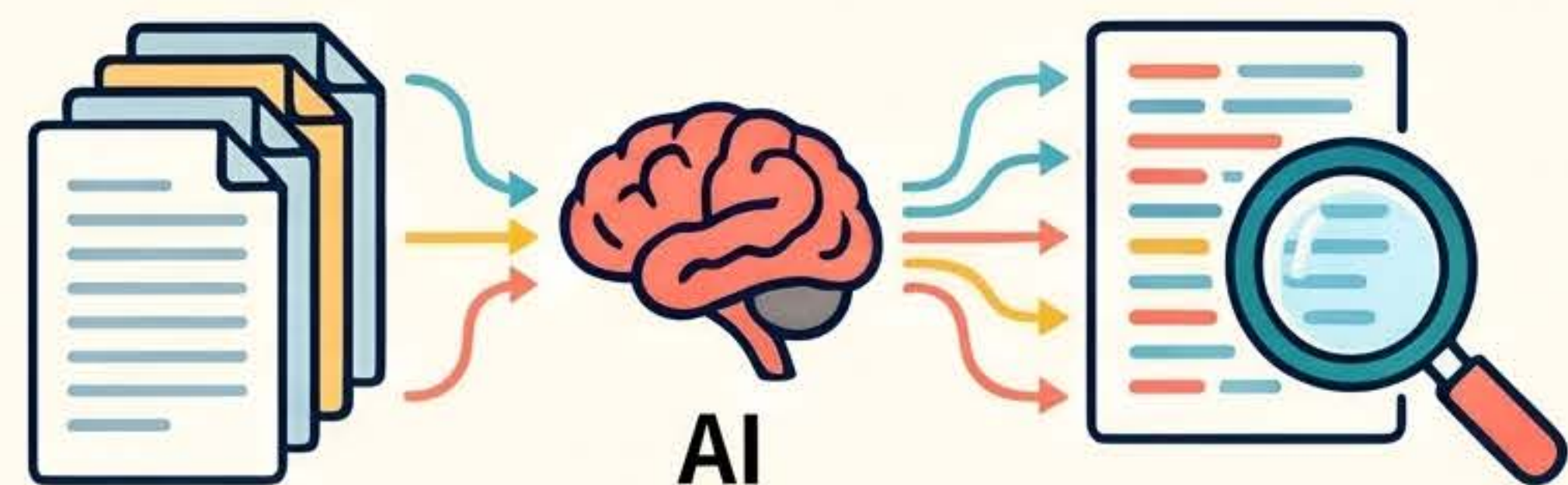
電気・機械・化学医薬の全分野で、
AIスクリーニング後の上位30件
内に全正解が含まれた。

分野別の正解件数と再現率（上位30件）



検証結果と
革新的な手法

革新的な手法



10万件の審査官認定事例に基づく類語拡張
統計的共起ではなく、実際の拒絶理由通知書から抽出
された語彙で検索精度を向上。



査読工数を約70%削減
確認対象を上位100件から30件へ圧縮したこと
で、大幅な効率化を試算。

実務導入への示唆と留意点



検索実行



観点設計・結果検証

検索実行から「観点設計・結果検証」へ
サーチャーの役割は、AIの出力を検証し「何を正解
とするか」を定義する高度な業務へ移行する。



自社案件での
パイロット検証が不可欠

過去問は「既知の正解」である
ため、未知の案件での再現性を
自社データで確認すべき。



限界を理解した
「限定条件付き」の活用

統計的有意性やデータリークの
リスクを考慮し、FTO調査等では
人手の最終確認を併用する。